

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式	
信託期間	無期限（2000年5月2日設定）	
運用方針	主として、グロースマザーファンド受益証券に投資し、RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとして、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。マザーファンド受益証券の組入比率は原則として高位を維持することとします。	
主要運用対象	ベビーファンド	グロースマザーファンド受益証券を主要投資対象とします。このほか、当ファンドで直接投資することがあります。
	マザーファンド	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	ベビーファンド	株式への実質投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
	マザーファンド	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	経費等控除後の配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には、分配を行わないことがあります。	

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。  
 ※公募株式投資信託は税法上、「NISA（少額投資非課税制度）およびジュニアNISA（未成年者少額投資非課税制度）」の適用対象です。  
 詳しくは販売会社にお問い合わせください。

## 運用報告書（全体版）

### 日本株スタイルセレクトオープン

愛称：ビッグ・ウィング・ワン

## 三菱UFJ スタイルセレクト・ グロースファンド

愛称：飛躍

第35期（決算日：2018年3月12日）

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。  
 さて、お手持ちの「三菱UFJスタイルセレクト・グロースファンド」は、去る3月12日に第35期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。  
 今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。



### 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号  
 ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客様専用  
フリーダイヤル **0120-151034**  
 （受付時間：営業日の9:00～17:00、  
土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く）

お客様の取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

## 本資料の表記にあたって

- ・原則として、各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しておりますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値とは一致しないことがあります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
- ・一印は組入れまたは売買がないことを示しています。

## ○最近5期の運用実績

決算期	基準価額			RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
	(分配落)	税込 分配	み 金騰 落率	騰 落率	騰 落率			
	円	円	%		%	%	%	百万円
31期(2016年3月10日)	5,850	0	△ 6.2	134.83	△ 3.8	98.1	—	1,708
32期(2016年9月12日)	5,662	0	△ 3.2	131.68	△ 2.3	97.5	—	1,585
33期(2017年3月10日)	6,794	0	20.0	150.40	14.2	97.9	—	1,769
34期(2017年9月11日)	7,344	0	8.1	161.11	7.1	96.8	—	1,806
35期(2018年3月12日)	8,401	0	14.4	174.95	8.6	97.0	—	1,950

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Russell Investmentsと野村証券株式会社が作成している株価指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はRussell Investmentsと野村証券株式会社に帰属します。また、Russell Investmentsと野村証券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株式組入比率	株式先物比率
	騰落率	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首)	円	%		%	%	%
2017年9月11日	7,344	—	161.11	—	96.8	—
9月末	7,629	3.9	165.76	2.9	96.8	—
10月末	8,211	11.8	175.47	8.9	96.7	—
11月末	8,403	14.4	178.79	11.0	97.4	—
12月末	8,493	15.6	179.09	11.2	97.1	—
2018年1月末	8,754	19.2	182.32	13.2	96.4	—
2月末	8,522	16.0	176.51	9.6	96.7	—
(期末)						
2018年3月12日	8,401	14.4	174.95	8.6	97.0	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

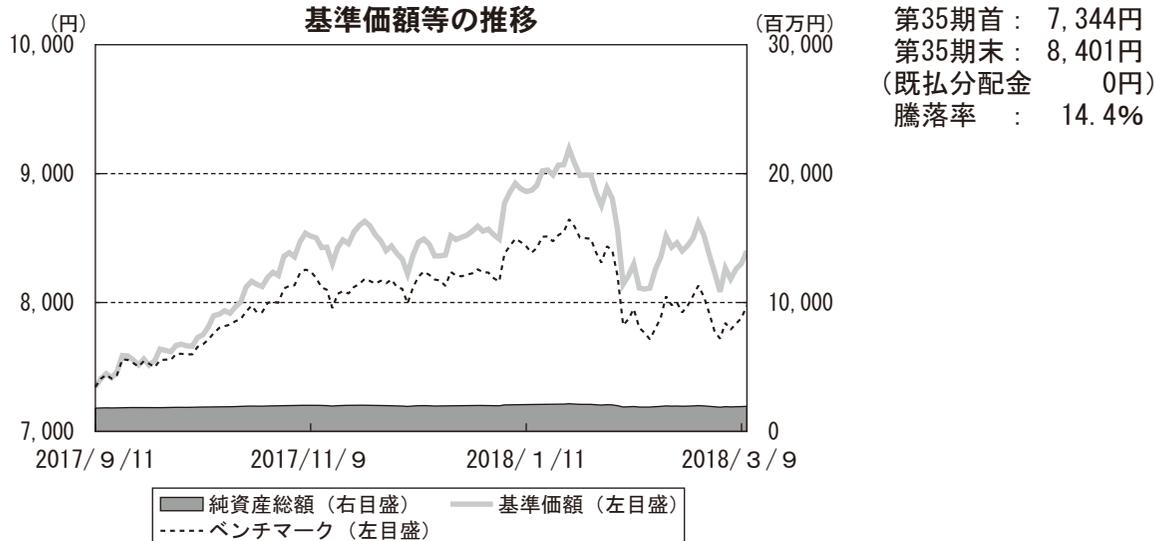
(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## 運用経過

## 当期中の基準価額等の推移について

(第35期：2017/9/12～2018/3/12)

基準価額の動き	基準価額は期首に比べ14.4%の上昇となりました。
ベンチマークとの差異	ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(8.6%)を5.8%上回りました。



・分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。



実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

## 基準価額の主な変動要因

上昇要因	衆議院選挙での与党の大勝や、2017年度中間期決算での好調な企業業績、米国の税制改革法案の成立などを背景に国内株式市況が上昇したことが、基準価額の上昇要因となりました。
下落要因	米国金利の一段の上昇懸念や、貿易摩擦で世界経済が減速するとの警戒感などで世界的に株式市況が下落したことが、基準価額の一時的な下落要因となりました。

## 投資環境について

(第35期：2017/9/12～2018/3/12)

## ◎国内株式市況

- ・期首から2018年1月下旬にかけては、衆議院選挙での与党の大勝や、2017年度中間期決算での好調な企業業績、米国の税制改革法案の成立などが好感され、上昇しました。
- ・2月上旬から期末にかけては、1月の米雇用統計が米国のインフレ圧力の高まりを示す内容であったことをきっかけに米国金利の一段の上昇懸念が強まり、さらにトランプ米大統領の通商政策を巡る発言により貿易摩擦で世界経済が減速するとの警戒感が台頭したことなどから、世界的に株式市況は大きく下落しました。

## 当該投資信託のポートフォリオについて

**i** 期間中にどのような運用をしたかを確認できます。

## &lt;三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド&gt;

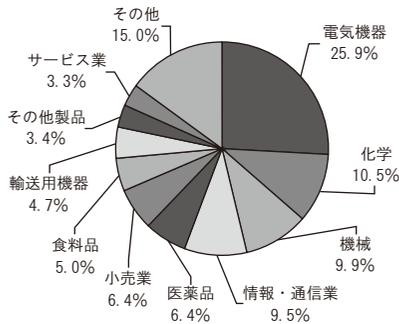
- ・グロースマザーファンド受益証券を通じてわが国の株式に投資しています。株式実質組入比率は、運用の基本方針にしたがい95%程度の高水準を維持しました。

## &lt;グロースマザーファンド&gt;

基準価額は期首に比べ15.5%の上昇となりました。

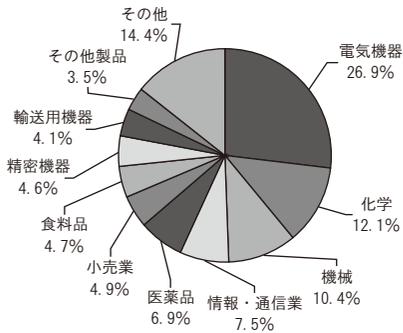
- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は、65～70銘柄程度で推移させました。省力化投資に対する強い需要を背景に業績が好調に推移している「ファナック」、半導体業界の高水準な設備投資の追い風を受けている「SCREENホールディングス」など16銘柄程度を新規に組み入れました。一方でバリュエーション、業績動向などを勘案し、「安川電機」、「塩野義製薬」など18銘柄程度を全株売却しました。

(ご参考)  
組入上位10業種  
期首 (2017年9月11日)



(注) 比率は現物株式評価額に対する割合です。

期末 (2018年3月12日)



### 当該投資信託のベンチマークとの差異について



ベンチマークまたは参考指数と比較することで、期間中の運用内容を評価することができます。

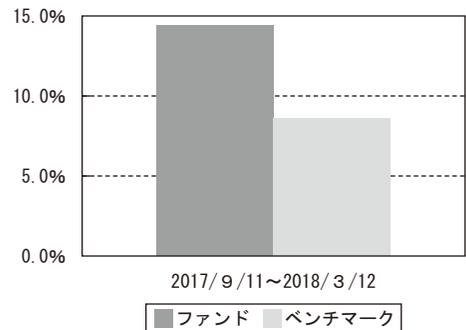
#### <三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率 (8.6%) を5.8%上回りました。実質的な運用を行っておりますマザーファンドでベンチマークを6.9%上回ったことによるものです。

#### <グロースマザーファンド>

- ・ファンドの騰落率は、ベンチマーク (RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス) の騰落率 (8.6%) を6.9%上回りました。
- ・当期の運用成果は、全体ではベンチマークを上回りました。業種配分効果としては、非鉄金属、輸送用機器などがマイナスに影響しましたが、食料品、電気機器などがプラスに寄与しました。銘柄選択効果については、東ソーなどがマイナスに影響しましたが、SUMCO、東海カーボンなどがプラスに寄与しました。

基準価額 (ベビーファンド) とベンチマークの対比 (騰落率)



・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

◎銘柄

- ・SUMCO：半導体用シリコンウェーハ製造・販売大手。自動車の電装化やデータセンタ向け需要の拡大などを期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。価格の上昇や数量の増加などを受けた業績の拡大などを背景に株価が上昇し、プラスに寄与しました。
- ・東海カーボン：タイヤの原料として使うカーボンブラックの日本と中国の生産能力削減、全社で約100人の人員削減などの構造改革を実施したことで、業績が改善へ向かう可能性が高いと判断して期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。主力事業の1つである黒鉛電極が、中国の環境規制強化を受けて需給が改善し、販売価格が大きく上昇する気運が高まったことなどから株価は上昇しプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

◎銘柄

- ・東ソー：コモディティ関連事業で経営の基盤となるキャッシュフローと利益を確保し、ハイシリカゼオライトやジルコニア、バイオサイエンスなどのスペシャリティ関連事業で利益拡大を追求する事業戦略を評価し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。石油化学市況のピークアウト懸念などから、株価は下落しマイナスに影響しました。

## 分配金について

**i** 分配金の内訳および翌期繰越分配対象額（翌期に繰越す分配原資）がどの程度あるかを確認できます。

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

【分配原資の内訳】 (単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第35期
	2017年9月12日～2018年3月12日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	579

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針（作成対象期間末での見解です。）

### <三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド>

#### ◎今後の運用方針

- ・今後もグロースマザーファンド受益証券を高位に組み入れる方針です。

### <グロースマザーファンド>

#### ◎運用環境の見通し

- ・世界の主要国の景気が概ね改善基調にある中で、国内企業の2017年10-12月期決算は、事前の高い期待に沿った水準を確保したものが多かったと捉えています。投資家の関心は2018年度業績に向かい始めていますが、こうしたマクロとミクロのファンダメンタルズに下支えされ、国内株式市況はしばらくは堅調に推移すると予想しています。先々は、欧米の金融政策や米国の中選挙などが不透明要因とみられますが、現時点では北朝鮮情勢などの地政学リスクを除き、大きな不安要因はないと考えています。また、米国金利上昇懸念を起点として世界的に株式市況は下落しましたが、世界の中央銀行で金融緩和から正常化への動きがみられており、金利上昇自体は正常化への流れの一環と捉えています。国内株式市況については、実体経済が堅調な点には変わりないため、金融市場が落ち着きを取り戻すにつれて徐々に持ち直すと考えています。

#### ◎今後の運用方針

- ・株式の組入比率は、引き続き高水準を維持する方針です。
- ・基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるバリュエーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年9月12日～2018年3月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 ( 投 信 会 社 ) ( 販 売 会 社 ) ( 受 託 会 社 )	円 76 (36) (36) ( 4 )	% 0.914 (0.430) (0.430) (0.054)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率× (期中の日数÷年間日数) ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価 ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	5 ( 5 )	0.060 (0.060)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
(c) そ の 他 費 用 ( 監 査 費 用 )	0 ( 0 )	0.001 (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合 計	81	0.975	
期中の平均基準価額は、8,335円です。			

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
グロースマザーファンド	千口 528	千円 657	千口 119,801	千円 133,103

## ○株式売買比率

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	グロースマザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	2,572,500千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,109,977千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.82	

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 利害関係人との取引状況

&lt;三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド&gt;

該当事項はございません。

&lt;グロースマザーファンド&gt;

区 分	買付額等 A			売付額等 C		
	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	%	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$	%
株式	百万円 342	百万円 1,074	31.8	百万円 439	百万円 1,497	29.3

平均保有割合 61.6%

※平均保有割合とは、親投資信託の残存口数の合計に対する当該ベビーファンドの親投資信託所有口数の割合。

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	1,194千円
うち利害関係人への支払額 (B)	366千円
(B) / (A)	30.7%

(注) 売買委託手数料総額は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFG証券です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月12日現在)

## 親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
グロースマザーファンド	千口 1,823,619	千口 1,704,346	千円 1,945,681

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

## ○投資信託財産の構成

(2018年3月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
グロースマザーファンド	千円 1,945,681	% 98.7
コール・ローン等、その他	26,022	1.3
投資信託財産総額	1,971,703	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月12日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	1,971,703,799
コール・ローン等	22,315,766
グロースマザーファンド(評価額)	1,945,681,815
未収入金	3,706,218
(B) 負債	21,615,364
未払解約金	3,524,429
未払信託報酬	18,063,314
未払利息	54
その他未払費用	27,567
(C) 純資産総額(A-B)	1,950,088,435
元本	2,321,342,132
次期繰越損益金	△ 371,253,697
(D) 受益権総口数	2,321,342,132口
1万口当たり基準価額(C/D)	8,401円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 2,459,856,302円  
 期中追加設定元本額 1,260,668円  
 期中一部解約元本額 139,774,838円  
 また、1口当たり純資産額は、期末0.8401円です。

②純資産総額が元本額を下回っており、その差額は371,253,697円です。

## ③分配金の計算過程

項 目	2017年9月12日～ 2018年3月12日
費用控除後の配当等収益額	11,510,730円
費用控除後・繰越欠損金補填後の有価証券売買等損益額	-円
収益調整金額	354,775円
分配準備積立金額	122,668,622円
当ファンドの分配対象収益額	134,534,127円
1万口当たり収益分配対象額	579円
1万口当たり分配金額	-円
収益分配金金額	-円

## ○損益の状況 (2017年9月12日～2018年3月12日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 3,301
受取利息	26
支払利息	△ 3,327
(B) 有価証券売買損益	263,023,086
売買益	274,932,418
売買損	△ 11,909,332
(C) 信託報酬等	△ 18,090,881
(D) 当期損益金(A+B+C)	244,928,904
(E) 前期繰越損益金	△409,351,862
(F) 追加信託差損益金	△206,830,739
(配当等相当額)	( 354,586)
(売買損益相当額)	(△207,185,325)
(G) 計(D+E+F)	△371,253,697
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金(G+H)	△371,253,697
追加信託差損益金	△206,830,739
(配当等相当額)	( 354,775)
(売買損益相当額)	(△207,185,514)
分配準備積立金	134,179,352
繰越損益金	△298,602,310

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

\*三菱UFJ国際投信では本資料のほか、当ファンドに関する情報等の開示を行っている場合があります。詳しくは、取り扱い販売会社にお問い合わせいただくか、当社ホームページ (<https://www.am.mufg.jp/>) をご覧ください。

【お 知 ら せ】

- ①当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
(変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)  
(2018年1月1日)
- ②2014年1月1日から、2037年12月31日までの間、普通分配金並びに解約時又は償還時の差益に対し、所得税15%に2.1%の率を乗じた復興特別所得税が付加され、20.315% (所得税15%、復興特別所得税0.315%、地方税5% (法人受益者は15.315%の源泉徴収が行われます。)) の税率が適用されます。

## グロースマザーファンド

### 《第35期》決算日2018年3月12日

[計算期間：2017年9月12日～2018年3月12日]

「グロースマザーファンド」は、3月12日に第35期の決算を行いました。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第35期の運用状況をご報告申し上げます。

運 用 方 針	RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスをベンチマークとし、中長期的に同指数を上回る投資成果をめざして運用を行います。わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式の中から、将来の成長が期待できる銘柄に投資します。銘柄選定にあたっては、ファンドマネジャーおよび当社アナリストの企業訪問調査をベースにした、企業の定性評価（企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目します。）を重視します。株式の組入比率は原則として高位を維持することとします。
主要運用対象	わが国の金融商品取引所に上場されている株式および店頭登録株式を主要投資対象とします。
主な組入制限	株式への投資割合に制限を設けません。 外貨建資産への投資は行いません。

### ○最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率	純 資 産 総 額
	期 騰 落	中 率	期 騰 落	中 率			
	円	%		%	%	%	百万円
31期(2016年3月10日)	7,662	△ 5.3	134.83	△ 3.8	98.3	—	2,858
32期(2016年9月12日)	7,484	△ 2.3	131.68	△ 2.3	97.4	—	2,569
33期(2017年3月10日)	9,063	21.1	150.40	14.2	98.1	—	2,855
34期(2017年9月11日)	9,888	9.1	161.11	7.1	97.0	—	3,097
35期(2018年3月12日)	11,416	15.5	174.95	8.6	97.2	—	3,107

(注) RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスを構成するインデックスの一つです。RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックスは、わが国の全金融商品取引所全上場銘柄の全時価総額（時価総額は全て安定持株控除後）の98%超をカバーするRUSSELL/NOMURA Total Marketインデックスのうち、高修正PBR銘柄により構成されています。RUSSELL/NOMURA 日本株インデックスは、Russell Investmentsと野村證券株式会社が作成している株価指数で、当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はRussell Investmentsと野村證券株式会社に帰属します。また、Russell Investmentsと野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負うものではありません。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		RUSSELL/NOMURA Total Market Growthインデックス		株 組 入 比 率	株 先 物 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率	騰 落 率		
(期 首) 2017年9月11日	円	%		%	%	%
9 月 末	9,888	—	161.11	—	97.0	—
10 月 末	10,281	4.0	165.76	2.9	97.0	—
11 月 末	11,084	12.1	175.47	8.9	96.9	—
12 月 末	11,361	14.9	178.79	11.0	97.7	—
2018年1月末	11,500	16.3	179.09	11.2	97.3	—
2 月 末	11,874	20.1	182.32	13.2	96.6	—
(期 末) 2018年3月12日	11,575	17.1	176.51	9.6	96.9	—
	11,416	15.5	174.95	8.6	97.2	—

(注) 騰落率は期首比。

(注) 「株式先物比率」は買建比率－売建比率。

## ○運用経過

## ●当期中の基準価額等の推移について

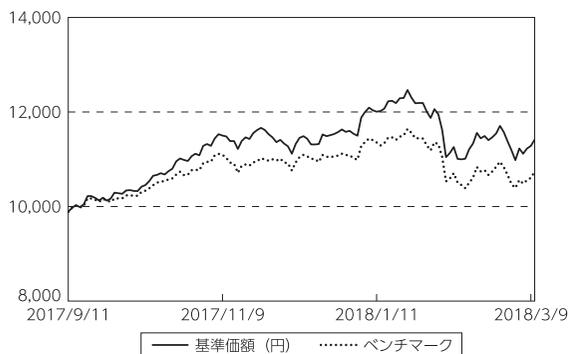
## ◎基準価額の動き

基準価額は期首に比べ15.5%の上昇となりました。

## ◎ベンチマークとの差異

ファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(8.6%)を6.9%上回りました。

基準価額等の推移



(注) ベンチマークは期首の値をファンド基準価額と同一になるよう指数化しています。

## ●投資環境について

## ◎国内株式市況

- ・期首から2018年1月下旬にかけては、衆議院選挙での与党の大勝や、2017年度中間期決算での好調な企業業績、米国の税制改革法案の成立などが好感され、上昇しました。
- ・2月上旬から期末にかけては、1月の米雇用統計が米国のインフレ圧力の高まりを示す内容であったことをきっかけに米国金利の一段の上昇懸念が強まり、さらにトランプ米大統領の通商政策を巡る発言により貿易摩擦で世界経済が減速するとの警戒感が台頭したことなどから、世界的に株式市況は大きく下落しました。

## ●当該投資信託のポートフォリオについて

- ・個別銘柄の選別においては、企業が置かれている事業環境、競争力、マネジメント力等に注目し、将来の成長が期待できる企業を中心に投資を行いました。
- ・組入銘柄数は、65～70銘柄程度で推移させました。省力化投資に対する強い需要を背景に業績が好調に推移している「ファナック」、半導体業界の高水準な設備投資の追い風を受けている

「SCREENホールディングス」など16銘柄程度を新規に組み入れました。一方でパリュエーション、業績動向などを勘案し、「安川電機」、「塩野義製薬」など18銘柄程度を全株売却しました。

●当該投資信託のベンチマークとの差異についてファンドの騰落率は、ベンチマークの騰落率(8.6%)を6.9%上回りました。

- ・当期の運用成果は、全体ではベンチマークを上回りました。業種配分効果としては、非鉄金属、輸送用機器などがマイナスに影響しましたが、食料品、電気機器などがプラスに寄与しました。銘柄選択効果については、東ソーなどがマイナスに影響しましたが、SUMCO、東海カーボンなどがプラスに寄与しました。
- ・特に、寄与、影響が大きかった銘柄は以下の通りです。

(プラス要因)

#### ◎銘柄

- ・SUMCO：半導体用シリコンウェーハ製造・販売大手。自動車の電装化やデータセンタ向け需要の拡大などを期待し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。価格の上昇や数量の増加などを受けた業績の拡大などを背景に株価が上昇し、プラスに寄与しました。
- ・東海カーボン：タイヤの原料として使うカーボンブラックの日本と中国の生産能力削減、全社で約100人の人員削減などの構造改革を実施したことで、業績が改善へ向かう可能性が高いと判断して期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしていました。主力事業の1つである黒鉛電極が、中国の環境規制強化を受けて需給が改善し、販売価格が大きく上昇する気運が高まったことなどから株価は上昇しプラスに寄与しました。

(マイナス要因)

#### ◎銘柄

- ・東ソー：コモディティ関連事業で経営の基盤となるキャッシュフローと利益を確保し、ハイシリカゼオライトやジルコニア、バイオサイエンスなどのスペシャリティ関連事業で利益拡大を追求する事業戦略を評価し、期首よりベンチマーク比オーバーウェイトとしました。石油化学市況のピークアウト懸念などから、株価は下落しマイナスに影響しました。

#### ◎今後の運用方針

##### ◎運用環境の見通し

- ・世界の主要国の景気が概ね改善基調にある中で、国内企業の2017年10-12月期決算は、事前の高い期待に沿った水準を確保したものが多かったと捉えています。投資家の関心は2018年度業績に向かい始めていますが、こうしたマクロとミクロのファンダメンタルズに下支えされ、国内株式市況はしばらくは堅調に推移すると予想しています。先々は、欧米の金融政策や米国の中間選挙などが不透明要因とみられますが、現時点では北朝鮮情勢などの地政学リスクを除き、大きな不安要因はないと考えています。また、米国金利上昇懸念を起点として世界的に株式市況は下落しましたが、世界の中央銀行で金融緩和から正常化への動きがみられており、金利上昇自体は正常化への流れの一環と捉えています。国内株式市況については、実体経済が堅調な点には変わりないため、金融市場が落ち着きを取り戻すにつれて徐々に持ち直すと考えています。

##### ◎今後の運用方針

- ・株式の組入比率は、引き続き高水準を維持する方針です。
- ・基本的に企業の中長期成長性が高いことを重視しています。銘柄選定にあたっては、(1)新しい技術開発、(2)新興国向け事業の競争力、(3)企業買収や事業売却および戦略的投資の動向などに注目しています。株価変動によるパリュ

エーションの水準、中長期的な成長性や事業リスク、流動性などを考慮しながら組入比率の調整や新規銘柄への入れ替えを検討していく方針です。

## ○1万口当たりの費用明細

(2017年9月12日～2018年3月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 )	円 7 (7)	% 0.060 (0.060)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買時に取引した証券会社等に支払われる手数料
合 計	7	0.060	
期中の平均基準価額は、11,279円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

## ○売買及び取引の状況

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上場	千株 295 (△149)	千円 1,074,948 ( )	千株 471	千円 1,497,551

(注) 金額は受渡代金。

(注) ( )内は株式分割・増資割当および合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

## ○株式売買比率

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	2,572,500千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	3,109,977千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.82

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

## ○利害関係人との取引状況等

(2017年9月12日～2018年3月12日)

## 利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$ %	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$ %
株式	百万円 1,074	百万円 342	31.8	百万円 1,497	百万円 439	29.3

## 売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	1,936千円
うち利害関係人への支払額 (B)	591千円
(B) / (A)	30.5%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは三菱UFJモルガン・スタンレー証券、モルガン・スタンレーMUFJ証券です。

## ○組入資産の明細

(2018年3月12日現在)

## 国内株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>建設業 (2.2%)</b>				
清水建設	23	—	—	—
大和ハウス工業	7.7	9	35,541	
日揮	—	12.8	30,028	
<b>食料品 (4.7%)</b>				
ヤクルト本社	—	3.4	25,772	
アサヒグループホールディングス	13.3	15.2	85,287	
コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス	8.1	7.5	30,712	
ニチレイ	9.4	—	—	
日清食品ホールディングス	4.4	—	—	
<b>化学 (12.1%)</b>				
昭和電工	—	11.2	53,088	
住友化学	50	47	29,563	
東ソー	63	20	42,600	
信越化学工業	1.6	3.4	38,199	
東京応化工業	5	4.5	18,675	
宇部興産	—	10.3	32,239	
日本ペイントホールディングス	11.9	—	—	
資生堂	16.6	15.8	100,772	
ポーラ・オルビスホールディングス	12.1	11.3	50,059	
<b>医薬品 (6.9%)</b>				
塩野義製薬	10.3	—	—	
日本新薬	1.6	1.4	9,422	
中外製薬	17.6	13.8	75,624	
第一三共	—	9.6	36,854	
大塚ホールディングス	9.6	9	47,889	
ペプチドリーム	—	6.9	37,674	
<b>ガラス・土石製品 (3.1%)</b>				
東海カーボン	58	55.1	93,559	
<b>鉄鋼 (0.4%)</b>				
ジェイ エフ イー ホールディングス	—	4.7	10,650	
<b>非鉄金属 (1.5%)</b>				
三井金属鉱業	31	4.1	19,516	
UACJ	93	—	—	
古河電気工業	6.4	4.6	27,048	
<b>金属製品 (2.2%)</b>				
SUMCO	27.6	21.5	65,575	
<b>機械 (10.4%)</b>				
岡本工作機械製作所	—	6.8	26,826	
DMG森精機	—	6.5	13,364	

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	株 数	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千株	千円
<b>ディスコ</b>	3	1.8	47,430	
SMC	1.4	1.4	63,882	
小松製作所	21.1	29.3	107,853	
住友重機械工業	36	—	—	
日立建機	15.7	8.6	37,496	
ダイキン工業	3	1.5	18,037	
<b>電気機器 (26.9%)</b>				
日立製作所	—	17	13,756	
安川電機	32.5	—	—	
マブチモーター	3.1	—	—	
日本電産	7.6	7.9	135,840	
オムロン	8.2	7.8	49,608	
セイコーエプソン	12	—	—	
アルパック	—	1.8	11,628	
パナソニック	—	9.7	16,291	
ソニー	14.6	12.1	64,117	
TDK	—	1.5	14,955	
キーエンス	2	1.6	103,824	
シスメックス	—	1.8	16,056	
山一電機	24.4	23	45,057	
カシオ計算機	4.7	—	—	
ファナック	—	2.9	79,039	
ローム	6.9	4.3	48,676	
村田製作所	2.9	—	—	
小糸製作所	5.2	4.9	36,848	
S C R E E Nホールディングス	—	5.3	54,590	
東京エレクトロン	5.8	5.5	122,127	
<b>輸送用機器 (4.1%)</b>				
デンソー	2.7	5.2	31,564	
日野自動車	13.5	0.6	823	
スズキ	13.6	10.8	62,564	
ヤマハ発動機	9.8	9.1	29,711	
<b>精密機器 (4.6%)</b>				
テルモ	6.5	14.9	84,930	
朝日インテック	7.8	14.6	54,896	
<b>その他製品 (3.5%)</b>				
ヤマハ	4.8	—	—	
任天堂	2.3	2.2	106,480	
<b>陸運業 (0.8%)</b>				
東日本旅客鉄道	2.7	2.4	23,640	

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
西武ホールディングス	25.3	—	—
空運業 (—%)			
日本航空	7	—	—
情報・通信業 (7.5%)			
トレンドマイクロ	4.9	4.5	27,045
NTTドコモ	17.3	11.3	31,091
S C S K	5.1	4.6	20,309
福井コンピュータホールディングス	8.5	—	—
ソフトバンクグループ	19.6	17	146,812
卸売業 (—%)			
正栄食品工業	7.4	—	—
小売業 (4.9%)			
スタートトゥデイ	8.5	7.8	21,083
良品計画	1	0.9	34,200

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
ケーヨー	45	—	—
ニトリホールディングス	3.1	2	37,200
ファーストリテイリング	1.3	1.3	55,913
不動産業 (0.9%)			
東京建物	5.3	17.8	28,604
サービス業 (3.3%)			
パーソルホールディングス	14.3	13.3	37,266
総合警備保障	6.2	5.7	28,357
リクルートホールディングス	15.3	14.3	34,684
合 計	株 数 ・ 金 額	950	625
	銘柄数 < 比率 >	67	65 < 97.2% >

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。  
(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

## ○投資信託財産の構成

(2018年3月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	3,020,830	95.9
コール・ローン等、その他	130,745	4.1
投資信託財産総額	3,151,575	100.0

## ○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2018年3月12日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	3,151,575,307
コール・ローン等	125,410,357
株式(評価額)	3,020,830,450
未収配当金	5,334,500
(B) 負債	44,050,174
未払解約金	44,049,869
未払利息	305
(C) 純資産総額(A-B)	3,107,525,133
元本	2,722,060,572
次期繰越損益金	385,464,561
(D) 受益権総口数	2,722,060,572口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,416円

## &lt;注記事項&gt;

- ①期首元本額 3,132,356,885円  
 期中追加設定元本額 27,537,374円  
 期中一部解約元本額 437,833,687円  
 また、1口当たり純資産額は、期末1.1416円です。

## ②期末における元本の内訳(当親投資信託を投資対象とする投資信託ごとの元本額)

三菱UFJ スタイルセレクト・グロースファンド	1,704,346,370円
三菱UFJ スタイルセレクト・ブレンドファンド	1,017,714,202円
合計	2,722,060,572円

## [お知らせ]

当社ホームページアドレス変更に伴う記載変更を行うため電子公告のアドレスを変更し、信託約款に所要の変更を行いました。  
 (変更前(旧) <http://www.am.mufg.jp/> → 変更後(新) <https://www.am.mufg.jp/>)  
 (2018年1月1日)

## ○損益の状況 (2017年9月12日～2018年3月12日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	20,858,160
受取配当金	20,851,700
受取利息	215
その他収益金	28,308
支払利息	△ 22,063
(B) 有価証券売買損益	438,727,504
売買益	514,440,507
売買損	△ 75,713,003
(C) 当期損益金(A+B)	459,585,664
(D) 前期繰越損益金	△ 35,118,812
(E) 追加信託差損益金	4,298,663
(F) 解約差損益金	△ 43,300,954
(G) 計(C+D+E+F)	385,464,561
次期繰越損益金(G)	385,464,561

- (注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。  
 (注) (E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。  
 (注) (F)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。